

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ナーシングデイこすもす		
○保護者評価実施期間	令和6年12月16日	～	令和7年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 12人	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日	～	令和7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 12人	(回答者数)	12人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月27日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <有資格者率が高く豊富な専門的知識> ・有資格者が多く専門的知識がある ・子どものことを理解し専門性のある支援を行おうとしているところ ・看護師が多く重度の利用者の受け入れが可能 ・緊急時対応マニュアルの充実、不審者対応マニュアルなど必要なものはすぐに作成に取り掛かる ・マニュアルに沿った訓練の実施、周知とを家族との共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な視点で問題の提起や解決に向けて意見を出しあっている ・重症度の高い児、者の受け入れ ・個々に応じた緊急時対応マニュアルの作成、内服変更や処置変更時はすぐに変更、情報共有を実施 ・安心安全の確保、ケアの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部、外部研修への参加、参加者は伝達講習をして知識の共有の実施。 ・各専門職や委員が企画したマニュアルに沿った訓練の実施 ・ヒヤリハット報告が出たタイミングで事例を絡めたりリアルタイムな研修の実施
2	<ul style="list-style-type: none"> <入浴、送迎サービスの提供> ・入浴、送迎等、必要とされる支援に柔軟に対応できる ・放課後の利用にも入浴することができる ・送迎に看護師が添乗して安心して感がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・注入の有無や送迎時間を確認して時間内に全員入浴できるようスケジュールしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践の研修(洗髪方法、おむつフィット講習会など)の実施 ・車内での安全確保できるよう固定ベルトの整備 ・安全な運行を実施していることを家族へお知らせし安心感をもってもらう ・災害時の避難先や公衆電話設置場所などを入れた送迎ルートマニュアルの完成
3	<ul style="list-style-type: none"> <有意義なミーティングの実施> ・業務改善、業務内容の課題や改善に向けたミーティングがある ・情報共有がスタッフ間でできている ・ヒヤリハットに関して再発防止の対策をすぐに話し合い実施できている 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務日誌の活用 ・朝礼、終礼での報告が習慣化できている ・1回/月の会議と1回/月各委員を中心とした研修の実施 ・ヒヤリハット改善策を皆で話し合い、決定事項は全員が実行している 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードックスを見直ししながら日々の業務に活用していく ・毎月1回の職場内会議と研修の継続、内容の充実
4	<ul style="list-style-type: none"> <活動の提供と家族との情報共有> ・提供するサービスの質は保たれている(特定のスタッフが不在だとできないetcは特でない) ・利用時間が少ない放デイでも入浴、療育と時間調整を行い実施している ・保護者に向けて児の様子や活動の様子を伝えている ・楽しい活動をたくさんしていること ・ていねいな関り、支援ができている 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードックスの充実・処置などの方法の確実な伝達 ・デイでの過ごし方や活動を知ってもらうためブログ、マチコミ、玄関のホワイトボードの写真掲載、機関紙そよかぜの作成などを活用した情報公開 ・活動チームが計画をたてて実行している 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳の「事業所での様子」の記録方法。より様子が伝わりやすいような支援記録方法の研修 ・連絡帳アプリについての情報収集、その後導入の検討

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <外部との交流の機会がない> ・家族支援(保護者会、参観日など)きょうだい支援、地域との交流がない ・ボランティアの受け入れが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の事業を運営しているため日に時間がとれない ・時間調整困難 ・時間、スペース、人員確保が難しい ・利用者の多くが抵抗力が弱く易感染性の方。不特定多数の人との交流は慎重にならざるを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の行事(夏祭りやクリスマスなど)の活動に合わせて保護者の方に参観してもらえる機会を設ける(予約制) ・事業所の休業日に合わせて保護者、きょうだいが参加できるイベントの企画 ・他事業所や看護学生、療育園などとの交流 ・鳥取養護学校へ訪問
2	<ul style="list-style-type: none"> <支援の共有、方向性がみえにくい> ・目指すゴールが統一できていない人とできていない人がいる ・専門職が多いのに「点」の支援になりがち、情報収集→アセスメント→計画立案→実践→評価修正のPDCAサイクルが回せていない ・支援終了後の振り返りを行い職員全員全体で共有することが少ない ・5領域を考えた活動が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通したアセスメントツールがない ・メバが活用できていない ・療育に生かせていない ・こすもす会議で話をするようにし始めた ・保育士以外の5領域の理解が乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士を中心に5領域とこすもすで行っている活動を結び付けて考えることができるよう研修を行う ・療育活動の振り返りを療育メンバーだけで行わず、全員で行い共有し自分の知識にかえていく
3	<ul style="list-style-type: none"> <フロアが狭い> ・利用人数によっては狭く感じる ・ワンフロアのため生活空間が区切りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面の改善は困難 ・4つの事業を展開しているため1日通じてフロア内に常に利用者さんがいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓で空間作り 物品は所定の位置に収納する ・生活空間が区切れない分、スケジュールボードを作成し来所時には日課を提示する。できれば朝の会の実施
4	<ul style="list-style-type: none"> <利用時間が短い> ・必要なケアの提供のみで帰宅してしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の1時間程度の利用でも希望があれば入浴サービスを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間でも関わられるよう朝礼での活動計画の発表 時間の有効活用 ・他事業所では実施していない放デイでの入浴サービスなので自信をもって提供する